

たより

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山540-8

TEL : 0173-57-9022 FAX : 0173-69-2788

E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp

HP : <http://www.rinya.maff.go.jp>

/tohoku/syo/gizyutu/

森林技術・支援センター業務の一部を紹介（盛岡市周辺）

今回は、盛岡市周辺の技術開発課題をいくつかご紹介します。

一つ目は、「2条3条植栽による下刈の省力と多様な森づくり（平成30年度～令和4年度）」です。従来の方形植えで実施していた低密度植栽を、植栽本数はそのままに、一定間隔ごとに密集させて植える2条植え、3条植えを実施することで、密度効果（多節・大節の防止、早期樹冠閉鎖による競合植生の抑制）を発揮させるとともに、非植栽区域では下刈を省略することによって、全体としての下刈実行面積の削減を図ります。また、下刈を省略する区域



（岩手町字四日市山国有林1022林班内）

（非植栽区域）では、ぼう芽力等を活用した天然更新により広葉樹と人工林をモザイク的に配置した針広混交林を造成することを目的としています。

植栽4年目の現在、植栽木同士の密度効果はまだ発揮される段階ではありませんが、下刈面積の削減により、下刈にかかる人工数経費が大幅に削減されたほか、下刈を省略した区域では広葉樹が侵入し、広葉樹と人工林がモザイク的に配置された針広混交林造成の可能性が示されています。



（雫石町網張国有林784林班内）

二つ目は、「カラマツ挿し木コンテナ苗による植栽試験（令和2年度～令和6年度）」です。カラマツは初期成長が優れ、下刈回数削減など造林コストの低減が期待されています。また、素材としての需要拡大を受け、造林樹種としても注目されています。一方、カラマツの種子は着果の豊凶の影響を受けるため恒常的に不足している状況にあり、安定的な種子の生産と供給が課題となっています。このような中、慢性的なカラマツの種子不足を補う技術として「挿し木コンテナ苗」が開発されたことから、造林地での成長特性の検証を行うことを目的としています。

植栽2年目の現在、カラマツ挿し木コンテナ苗は普通品種コンテナ苗に比べて樹高・根元径ともに高い値を示しており、新しい選択枝としての「挿し木苗」実用化へ向け、継続調査していくこととしています。

三つ目は、「特定母樹挿し木コンテナ苗による低コスト造林試験（平成30年度～令和4年度）」です。

下刈回数の削減には成長が優れた苗木が必要であり、特定母樹は従来の苗木より成長等の特性が優れたものであり、下刈コストの削減等について期待されています。しかしながら特定母樹の実生苗が供給できるようになるにはまだ時間がかかるため、挿し木による苗木によって下刈回数削減の可能性や活着率等の成長特性も検証することを目的としています。

この技術開発課題は、宮城県白石市にある蔵王試験地（平成30年度～令和4年度）とセットで進めています。

岩手県雫石町にある網張試験地（令和2年度～令和4年度）においては現在植栽2年目ですが、昨年の冬に雪による倒伏被害が発生しています。そのため成長特性の検証のほか、雪害の原因分析や被害対策の検討も進めていくこととしています。

（森林技術普及専門官 八木）



（雫石町網張国有林784林班内）

令和3年度 森林・林業技術交流発表会開催



森林・林業技術交流発表会（1日目）

（審査員の質疑に答える青山係長）

令和3年度 森林・林業技術交流発表会が、令和4年2月1日～2日に東北森林管理局で開催されました。

この発表会は、東北森林管理局管内の東北5県（福島県除く）の民有林と国有林が一体となって、森林・林業・木材産業の活性化を推進するための技術開発や地域において実践している林業活性化への取り組みを発表するため、毎年開催しているものです。

新型コロナウイルスの感染状況の拡大を踏まえ、昨年度に引き続きWEB会議によるリモート開催

となりましたが、局・署等のもとより、県・高校・大学など幅広い機関から計41課題の発表があり、当センターからは、森林技術部門において業務係長の青山さんが「ヒバ林復元プロジェクト（中間報告）～稚幼樹の動態と施業効果の検証～」と題して発表を行いました。

当課題は、平成29年度から金木支署、青森森林管理署、下北森林管理署の青森県内3（支）署等で実施してきた「ヒバ林復元プロジェクト」のフォローアップ調査の結果について、5年間の経過を取りまとめ報告した発表内容であり、見事に森林技術部門で奨励賞を受賞することができました。本調査にご協力頂いた多くの方にお礼申し上げるとともに、今後も関係各署等と連携し本プロジェクトの取り組みをサポートして参ります。

また、同課題は2月18日から24日にかけてオンライン配信で開催された、青森県と（地独）青森県産業技術センター林業研究所の共催による「令和3年度青森県森林・林業・木材関係研究発表」においても発表が行われ、青森県内の森林・林業・木材関係者等に取り組みへの普及を図りました。（副所長 後藤）

～編集後記～

今年の冬は例年になく大雪だったため雪かきの回数が多くヘトヘトでしたが、やっと春が訪れます。雪道での運転も終わり、気が緩みがちとなりますので安全運転を徹底しましょう♪

来月から令和4年度が始まりますので、関係各位の皆様どうぞよろしくお願ひします。

